

神 示

神示に「真理」を読み取り 社会を正しく見詰める「悟り」を持つ

今日 社会の姿は 時代の運命を受けて 大きく変わった

信者は 「教え」に生きて 「真理」を人生の支えに生きる時代と気付くべし

時代の変化に気付けずに 知識と努力を頼って生きる人々も多い

変化に心のみ込まれ 悩み 苦しみ 迷いを深める因が ここにある

時代の変化は 自然の姿に現れる

人類は 変化に合わせて 社会の機構を変えていく

その時 多くの人々が 時代の運命に心流され 枯れていく

信者に教えん

人間は 神の手の中 運命を通し 人生守られている

家族で「教え」を学び 「真理」に生きる家庭を築く人々は

互いに実体を高め合い 運命に守られ 導かれた人生が歩める

運命に守られる人の心は安定し

時代の運命を受けて ますます「心の道」に良き実体を残し

その家庭は栄えていく

地域社会も 運命に守られ ますます発展してゆく

その時 地域の実体は安定し 自然災害にのみ込まれることもない

時代の運命に逆らわず 全ての体験が 人生を支える気付きと返る

神の手の中 運命に守られ 導かれて「生きる」 人間の姿が ここにある

社会機構を見るのではなく

時代の変化を読み取り 流れに乗って日々生きる信者を目指す

「教え」に悟りを得て 実体を高めることができずには 難しいことではない

神魂が使者を通し 社会に「真理」を示す 神魂の時代を大切に――

神示を軽んじてはいけない

神示に「真理」を読み取れる人々が 社会を「正道」へと導く時代に入っていく

「真理」で社会を正しく見詰める

令和五年、聖日三十七年を迎え、神は一人一人が一年を通して心に留め置くべき大切な事柄、生きる指針をご指導くださいました。

まず示されたのは、「神示に『真理』を読み取り、社会を正しく見詰める『悟り』」です。社会のありようは、変革期といわれたここ数年、時代の運命が働いて、大きく変化しました。こうした時期には、実にさまざまな異変が起こり、多くの人々の考え方が驚くほど様変わりします。違う方向にそれな思考を正すように、社会は変容し続けているのです。

神の手の中で生まれる人々の心や社会の変転に気付かず、旧態のままの意識でいては、時の流れに乗ることはできません。だからこそ、教えを基に社会を見詰める努力が必要なのです。

「真理」を人生の支えに生きる

社会が激しく移り変わる中であって、能力、運命が引き出されていくのです。

運命に導かれて生きる人の姿

神から与えられた運命に沿う生き方ができれば、心の動きが安定し、時代の運命とも重なって、必ず良い人生が歩めます。自身の持ち味が発揮でき、生きがいを得て、悔いを残すこともないのです。その結果、実体が高まり、その家は栄えていきます。栄えるとは、家族が仲良く、子は親に孝養を尽くし、各自が大いに社会の役に立てる姿です。

すると、周りに良い影響を及ぼし、環境も変わっていきます。地域の実体まで安定して、災害などにもまれません。それは、時代の運命に逆らわず、流れに乗って生きるからです。起きてくる全てを、人生の糧に返していけるのです。これが、「神の手の中、運命に守られ、導かれて『生きる』、人間の姿」です。

時代の流れに乗って生きる

日々の報道に触れると、「政府の方針

誰にも求められるのが、「『真理』を人生の支えに生きる」信念です。真理、物事の道理に沿って暮らすところに、変化にのまれることはないからです。

しかし、現実には、時代が変わり続けている事実気付かず、知識ばかり頼り、努力が全てと思いついで生きる人も多いものです。それでは、必ず行き詰まり、迷う結果となってしまいます。

神示は、全てが真理です。その不動の道理を考え方の軸に据え、社会の現状、さらにこれからの動きを読み取りながら生きる姿勢が不可欠です。

時代の変化は自然の姿に現れる

時代の変化というと、政治や経済の動向などに目が向きがちです。しかし、それでは、流れを正しくつかむことはできません。「時代の変化は、自然の姿に現れる」と、神は表されています。

政治の世界も、経済の世界も、人に見えるのは、変化に対応したり、社会の制度や規則を改変したりするだけです。そ

は：「ああした会社の対応は：」と、現実に心が揺れ動く人も多いものです。しかし、さまざまな事象からも、「時代の変化を読み取り、流れに乗って日々生きる」ことを心掛けるべきです。

例えば、社会には、その時々流行があります。そうしたものに、多くの人々の心が引き付けられます。ただし、時が過ぎれば、その価値はすっかり変わってしまいます。ですから、不変と言えないものは、うのみにしないことです。

必要なのは、神示を通して物事の成り立ち、道理をつかみ、社会の動きを見極める目を養う努力です。真理に沿うか、外れているのかを正しく判断するところに、流れに乗って生きられます。

使者を通し 神魂は「真理」を示す

神示教会には、全てを見通される神のお言葉、神示があります。神示どおりに生きていけば、誰もが与えられた運命に重なる毎日が送れます。人の役に立ち、満ち足りた人生を歩みきれれるのです。

れで世界が変わるわけではありません。

自然現象をはじめ、社会が変遷するから、仕組みも変えざるを得なくなるのです。それが分らないと、直近の事象に目を奪われ、心が乱されてしまいます。流れにのまれないようにするには、やはり教えを身に付けることが必要です。

人間は運命を通して守られる

そこで、一人一人がどのように生きればよいのか、神はなすべき事柄を示されました。ここを、自分の課題としてしっかりと受け止めましょう。

まず、誰もが「神の手の中、運命を通して、人生守られている」事実をよくよく理解しなくてはなりません。運命は、神から授けられた、人それぞれに異なる、社会に役立つ力です。

その運命の力を引き出すのが、家庭です。家族で教えを学び、日常生活に反映できれば、その家に受け継がれる実体で修正されます。物の捉え方、考え方、生き方が高まります。そこに、各自の潜在

ですから、「神魂が使者を通し、社会に『真理』を示す」今の有り難い時を大切にしましょう。決して神示を軽んじてはいけません。日々、神示に触れる習慣をつけるのです。絶えず神示を学んでいると、物を見る確かな目が持てます。

「真理」を読み取る「ついで

社会を正しく歩める

そのようにして、「神示に『真理』を読み取れる人々が、社会を『正道』へと導く時代に入っていく」と、神は言い切られています。道理に沿っているから、周りを正道へ導いていけるのです。

正道へ導くとは、大それたことをするわけではありません。神魂と心を重ね、教えに沿って生きていくと、自身の心が常に明るく、強くいられるだけでなく、周りに良い影響を与えていきます。

一番身近な家庭に始まり、職場に、地域社会にと、その生き方から良い薫りが伝わります。そして、周りを自然と正道へ導いていくのです。